

第7回 破壊靱性検討会議事録

1. 開催日時：平成16年11月25日(木) 13:30～17:00

2. 開催場所：航空会館 B101会議室

3. 参加者(順不同,敬称略)

委員：富松主査(三菱重工業), 平野副主査(石川島播磨重工業), 大畑(日本原電),
金澤(東芝), 古賀(電源開発), 小島(日立製作所), 曾根田(電力中央研究所),
辻(富士電機), 半田(JFEスチール), 平沼(東京電力) (計10名)

欠席者：朝田(三菱重工業), 山下(神戸製鋼), 鈴木(日本製鋼所), 松本(バブコック
日立), 佐藤(発電設備技術検査協会)

(計5名)

代理参加者：鬼沢(日本原子力研究所・鈴木代理), 横田(関西電力・中野代理)

(計2名)

事務局：上山, 福原(日本電気協会)

(計2名)

4. 配付資料

資料No.7-1 第6回破壊靱性検討会議事録(案)

資料No.7-2 JEAC4201改定案公衆審査意見対応(案)修正版

資料No.7-3 JEAC4201, JEAC4206改定案 著作権調査

資料No.7-4 マスターカーブ法の電力ニーズについて

資料No.7-5 JSME設計建設規格・維持規格とJEAC4201/4202/4206の棲み分け

資料No.7-6 破壊靱性検討会に係わる規程の課題と今後の方針

参考資料 - 1 第11回構造分科会議事録(案)

参考資料 - 2 監視試験片の再生について(Draft)

5. 議事

(1) 委員定足数の確認

事務局より, 委員総数17名に対して代理を含めた本日の出席委員数は12名で, 「委員総数の3分の2以上の出席」という会議開催定足数の条件を満たしていることの報告があった。また, 富松主査より上記代理出席者参加が了承された。

(2) 前回議事録の確認

資料No.7-1の前回議事録(案)について, 特にコメントなく了承された。また, 参考資料-1の第11回構造分科会議事録(案)が紹介された。

(3) JEAC4201改定案公衆審査意見対応(案)修正について

資料No.7-2及びに基づき, 富松主査より前回構造分科会における題記公衆審査意見対応案へのコメント及びその対応について紹介があり, 分科会指摘事項を盛り込むことで反

対意見なく了承された。本件は富松主査がフォローし、12月21日開催予定の原子力規格委員会に大畑委員より説明いただく予定。

(4) JEAC4201, JEAC4206 改定案発行に伴う著作権手続き準備他について

資料 No.7-3 に基づき、富松主査より、JEAC4201, JEAC4206 両改定案の ASME, ASTM に対する JEAC 発刊時の Copy Right 手続き必要箇所の抽出結果の整理状況が報告された。その結果、JEAC4201 改定案については対象箇所なし、JEAC4206 改定案については ASME Sec. , XI に対して手続きが必要とのこと。本件は12月3日までに富松主査が最終的な整理をすることとなった。

(5) マスターカーブ法の電力ニーズについて

資料 No.7-4 に基づき、題記について平沼委員より事業者における意見が紹介された。結論としてはマスターカーブ法により合理的な運転管理が可能となる評価手法の規格化は望ましいものの、IAEA ガイドライン発刊等の海外動向や、現行からの完全移行には建設時データがないこと、寸法効果の影響の解明など、諸課題の動向を注視している段階とのこと。

議論の結果、本件は中・長期課題と位置付け、周辺動向を注視していくこととなった。また、電中研における関連研究が H17 から開始される予定とのことより、時期をみて検討会に報告いただく予定とした。

本件に関する意見は以下のとおり。

- ・ マスターカーブ法による破壊靱性評価手法の導入は、まだ先になる見通しではあるが、例えば建設時データを採取する、など対応可能な範囲から Guide として規格化して行く手もある。

(6) 破壊靱性検討会の今後の課題

第 11 回構造分科会 (10月19日開催) において本件報告の予定としていたが、参考資料 - 1 のとおり構造分科会における規格体系化方針が議論され、改めて各検討会における長・中・短期の活動方針を次回分科会に報告することが求められたことを受けて、再度長・中・短期の活動課題における意見交換及び JSME 規格との棲み分けの考え方の整理を行った。

議論の結果、以下のような意見があった。
本件については、今後も意見集約期間を設け、富松主査が取り纏める予定となった。

(JSME 規格との棲み分け)

- ・ 告示 501 にあるような基本的な破壊靱性要求は JSME 設計・建設規格の範囲とし、詳細な評価手法等は JEAC の範囲とすると、現行から大きく変更がない棲み分けに整理できる。このような仕切りとするには、現在双方で重複している箇所を整理する必要がある。
- ・ JEAC4201 は監視試験の詳細規定として今後も整備していく必要がある。再生試験

片に関する規定も JEAC4201 に絡めて規格化するのが妥当。

- ・ JEAC4202 は落重試験規格として JIS もなく必要なものであるがほとんどの部分で JSME 設計・建設規格と重複している。今後の取扱いについては検討要。
- ・ JEAC4206 は JSME 設計・建設規格と維持規格の双方と重複している。以下 2 点の見方があるが、付録を除く本文は JSME 規格と重複している。棲み分け整備にあたっては構成の大幅な変更が必要となる。

設計・建設時の要求については、各機器の破壊靱性要求は完全に重複していることから JEAC 側の記載は廃止していくことも考えられる。

供用期間中の要求については、JEAC 付録の範囲で現状の JSME 規格に対応する内容がないため、JEAC として整備を進める。

(長・中・短期の活動課題)

- ・ マスターカーブ法の規格化については、前述(5)参照。
- ・ 資料 7-6 に記載の内容で概ねよいが、海外動向の現状についてはより分かりやすい記述が必要。

(7) 監視試験片の再生について

富松主査より、現在、JNES で実施中の国プロについて、検討状況の紹介が行われた。資料について質問・意見・要望があれば、事務局まで連絡することとなった。

(8) その他

次回開催は改めて調整することとし、今後の活動計画等について検討を行う予定。

以 上